

たまげた

吉里吉里忌
2016

鼎談
観る、演る、論ず
井上芝居の魅力。

書庫から発見！
井上ひさしの
あんな本こんな本。

vol.001

March 2017

遅筆堂文庫広報誌たまげた

001
MARCH 2017

2017年3月31日(金)発行 第1号 発行:遅筆堂文庫 編集:山内七海

川西町フレンドリーフラザ 〒999-0121 山形県東置賜郡川西町上小松1037-1 TEL 0238-46-3311 / FAX 0238-46-3313

自分が体験したこと
誰にもわかるように
書かれた文章です。

小田豊一さん（元『the座』編集長）に「先生、いい文章っていうのはどんな文章なんですか？」と問われた際に出た発言。井上さんの掲げる「むずかしいことをやさしく やわしいことをふかくふかいくとをおもしろく」という創作のモットーが感じられる言葉ですね。

（遅筆堂トークin福島「井上ひさし名言辞典」より）



井上ひさしの言葉

ひとりの作家の元に一生涯でどんな本が何冊集まるか。

遅筆堂文庫は世界で初めての、そしておそらく最後の、

川西町でしかできない壮大な実験なんですよ。

吉里吉里忌2016

講演「井上ひさしと本」

鼎談「観る、演る、論ず—井上芝居の魅力—」

生活者大学校

テーマ「生活者大学校と井上ひさし」

吉里吉里忌ブレ企画／次回予告

全国幼児語辞典／仙人入門／

井上ひさしのあんな本・こんな本

小説すばる一九九四年十二月号

文庫のおしごと

遅筆堂文庫二〇一六年度企画展

井上ひさしと本／井上ひさしと生活者大学校／

「たいこどんどん」著作資料展

学芸員ノート

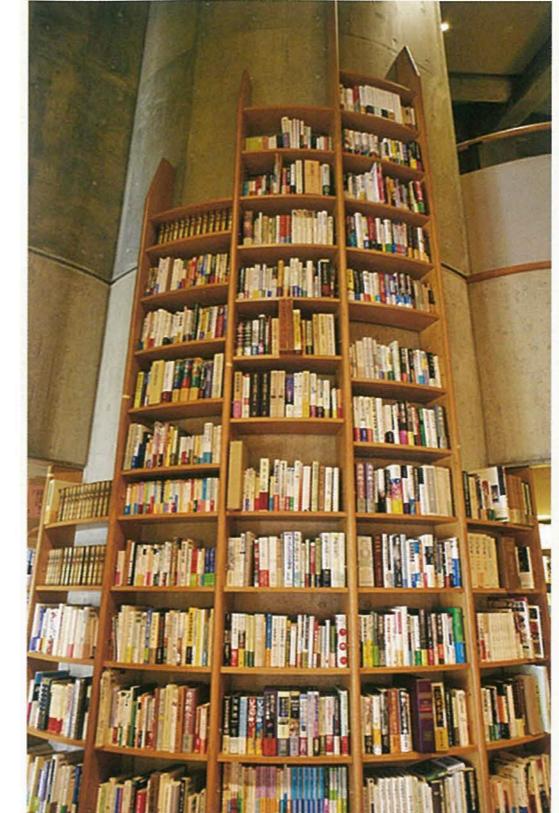
イベント紹介

朗読セミナー／編集講座／遅筆堂文庫読書会

表紙の写真

遅筆堂文庫と私の一年／遅筆堂文庫利用案内

井上ひさしの言葉



一九八七年に七万冊で開館した遅筆堂文庫は、二十数年の歳月を経て二十二万冊を超す蔵書となりました。それらの蔵書は作家の脳内で整理されていましたように分類され、配架されています。「まるで井上さんの頭の中を散歩しているみたいだ」と、ある劇作家が思わず口にしました。まさしく、幾人ものひとたちが、今日も井上ひさしの頭の中を散歩したことでしょう。



「担当編集者が語る創作秘話」

元文藝春秋編集者の鈴木文彦さん（写真右）と編集者の鳥兎沼佳代さん（写真中央）をお招きし、直木賞の選考会での様子や缶詰になって原稿を書く時のエピソードなどをお聞きしました。

吉里吉里已 2016

二〇一六年四月十日（日）

講演

井上ひさしと本

井上さんのふるさと・川西町で
第二回目の開催となった吉里吉里
忌。今回の講演のテーマは「井上
ひさしと本」ということで、作家の
出久根達郎さんをお迎えし、ご自

身と井上さんのつながりや、本にまつわるエピソードなど、様々なお話を聞かせていただきました。

「私のかみさんが銀座の書店でレジ係をしていた時に、毎回必ず大量に本を買って下さるお客様がいらっしゃったわけです。それで、『万一僕が万引き犯に間違えられたら、あなた証人になつてくださいね』っておっしゃつたその方が、井上ひさしさんだったんです」

自身と井上さんとの繋がりについて、出久根さんは講演の中でこのように話しました。後の平成四年に出久根さんが直木賞を受賞した際には井上さんが選考委員を務め、更にその後となる講演にて初対面となるのですが、実は出会う前にもこのような縁があつたそうです。

古書店の店主から作家になつた出久根さんと、家の末が抜けるほど本を集め愛した井上さ

「文豪と呼ばれるような作家の実際にござんだ
本が、手に取つて自分も読めるんですよ。井上
さんの書き込みがあり、付箋が付いた本をです
ね。(中略) 井上さんはおそらく紙の本の読者の
最後の人じゃないかと思います。つまり、あれ
だけ集めたという意味で。」

「本来安くなつたならば喜ぶべきことなんですよ、愛書家は。安く買えるから。安く読めるから。でも逆なんです。物にはやっぱり価格というものがありまして、正常な価格がついていなければだめなんです。（中略）井上さん同時に書き手でもありますからね、自分の生涯かけて書いたものが六千円ですよ。そりや情けなくなりますよ」

手軽さや費用対効果のよ
さが何かともてはやされる
昨今。だが、それらを求め
続けるあまり物の正常な価
値というものを見落として
はいないだろうか：そんな
ことを考えさせられた九十
分でした。

（山内七海）

第一部は「生活者大学校が考へてきたこと」。生活者大学校開校（一九八八年）の頃から井上校長最後の講座となつた第二十一回生活者大学校（二〇〇八年）までをダイジェストに振り返り、節目節目での井上校長の録音音声を披露しながらの講座となりました。各講師からは、自らが講師として参加した当時の発言や思い出が語られました。

第二部は「これからを生き抜く生活者の視点」。第一部を踏まえたうえで、古沢、宮本、山下の各講師から、その後の現状報告と現在の問題点について講演が行われました。古沢さん



「生活者大学校と

井上ひさし

二〇一六年四月九日（土）

生活者大学校

まず話題になつたのは井上さんの遅筆にまつわるエピソード。『小林一茶』では、最後の景の台本が出てきたのは舞台稽古の日といいます。「私はいませんように、あつてもひと言で……」と祈つていて、渡辺さんにあてられていたのは最もセリフの多い役。その時の複雑な胸中を大きな身ぶりを交えた迫真の回想でご披露いただき、会場は爆笑に包まれました。また、世界各地での公演経験を通じて、「化粧」のような普段心の中に眠つてゐる何かを搖さぶる力を持つたお芝居をやつていきたいと思うようになった」とお話ししていただきました。

大笛吉雄さんからは、日本の演劇史の中で井上演劇の果たした役割を解説いただきました。新国立劇場のこけら落とし公演となつた『紙屋町さん

鼎談
み
「観る、演る、論ず」
や
ろん
—井上芝居の魅力—

一九九四年の開館以来、五十本以上もの井上作品が上演された川西町フレンドリープラザの大ホール。この舞台上で行われた鼎談「観る、演る、論ず—井上演劇の魅力」には、女優の渡辺美佐子さん、演劇評論家の大笹吉雄さん、朝日新聞論説委員の山口宏子さんを迎え、井上演劇の魅力をたっぷり語りました。

渡辺美佐子さん。一九八一年に井上さんが渡辺さんには書き下ろした『化粧』は、再演から『化粧二幕』となり、二〇一〇年まで計六四八回の公演を行つ

役、その時の複雑な胸中を大きな身ぶりを交えた迫真の回想でご披露いただき、会場は爆笑に包まれました。また、世界各地での公演経験を通じて、「化粧」のような普段心の中に眠っている何かを搖さぶる力を持つたお芝居をやつていきたいと思

大笛吉雄さんからは日本の演劇史の中で井上
演劇の果たした役割を解説いただきました。新国
立劇場のこけら落とし公演となつた『紙屋町さく

講師紹介

渡辺美佐子（わたなべ・みさこ）
女優。井上作品は『小林一茶』『化粧』『もの黙阿弥』『頭痛肩こり樋口一葉』の4本に出演。『化粧』ではフランスやアメリカ公演も行う。

大曾吉雄（おおささ・よしょ）
演劇評論家。井上の上演作品は全て観劇。「座談会昭和文学史」（集英社）の第二巻で、井上と明治から昭和20年までの演劇史を語り合う。

山口宏子（やまぐち・ひろこ）
朝日新聞論説委員。演劇担当記者として数多くの取材や批評を執筆。2015～16年仙台文学館「井上ひさし作品を読む」の講師を務める。

本当に考え方の
のすごくよく
んで、その言葉
ほしい」と結

「交流会」

山下惣一（やました・そういち）
農業・作家。農業に従事しながら国内外の農の現場を精力的に歩き、小説やエッセイ、ルボルタージュなどの文筆活動を続ける。

宮本憲一（みやもと・けんいち）
大阪市立大学名誉教授。60年代初頭から公害現場を調査し、救済や予防の理論を構築。「環境経済学」の国際先駆者でもある。

古沢広祐（ふるさわ・こうゆう）
國學院大學名誉教授。持続可能社会論、環境社会経済学を専門とし、世界の農業食糧問題とグローバリゼーションなどについて研究。

阿部孝夫（あべ・たかお）
遅筆堂文庫館長。遅筆堂文庫開設のための井上蔵書移動に参加し、その後の井上宅での雑談から「生活者大学校」の企画が生まれる。

A photograph showing a group of approximately 20-25 people seated around a long, round table in a restaurant. They are all dressed formally, suggesting a special event or a formal meal. The table is covered with white tablecloths and set with various dishes, glasses, and cutlery. In the background, there's a large window that looks out onto a bright, possibly outdoor or semi-outdoor area. The lighting in the restaurant is warm and inviting.

2016/11/2 wed

井上ユリ

料理教室

2016/11/13 sun

ふるさと山形川西で井上ひさしを語り継ぐ

吉里吉里忌

は、二〇一〇年四月九日

に永眠した井

上ひさしを偲ぶ文学忌で、代表作

吉里吉里人から命名されました。

会場は、生まれ故郷である山形県川西町の

川西町フレンドリープラザ。ここには井上

ひさしの蔵書二十二万冊を収めた「遅筆堂文

庫」を拠点に井上自らが校長となつて、毎年

開校してきた「生活者大学校」と、縁あるゲ

ストがさまざまな視点から井上を語る「吉里

吉里忌」の二つの催しき、二日間にわたって開

催します。

プレ企画の初回は山形市の老舗書店、八文字屋本店のご協力をいただきて開催。ゲストにお招きしたのは集英社の文芸誌『すばる』で多くの井上作品を担当された編集者の高橋至さんです。この日のテーマは「山形わが町、現代文学」。近年活躍が目覚ましい山形出身の作家たちをまずは概観。そして話題は井上さんの執筆秘話へ。新作戯曲『ある八重子物語』の執筆が遅れ、芝居の幕が開かなかつた時の話では、集英社でカンヅメになつた井上さんのもとへ主演の中村勘三郎さんが羽織袴姿で激励に訪れたという興味津々のエピソードを紹介。井上さんの創作の伴走者であつた高橋さんならではのお話をたっぷり伺つた夜でした。

吉里吉里忌
プレ企画

井上さんと縁の深い方をお招きし、普段なかなか語られない素顔の井上さんに迫りました。

川西町の農村環境改善センターを会場に、イタリア料理研究家としても活躍する井上ユリさんのか分かりますか? 福島市市民活動サポートセンターにて、編集者作家(元「the座」編集長)小田豊二さんをお招きし、「井上ひさし名言辞典」と題したトークイベントを行いました。思わず笑つてしまふようなやり取りからこの国の未来についての深い話など、様々な状況で飛び出した井上ひさしさんの「名言」の数々をたっぷり聞かせていただきました。ちなみに「とびとびサスケ」は井上さんが育児のエッセイを頼まれた際に「休載ありますますがよろしくですか」と提示したタイトル。

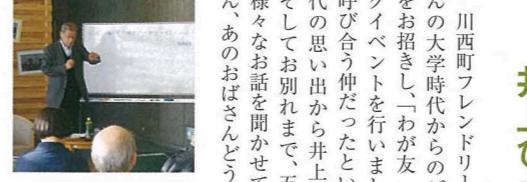
遅筆堂トーキーin福島
「井上ひさし 名言辞典」

2017/1/15 sun



遅筆堂カフェ
「わが友 井上ひさし」

2016/12/11 sun



川西町フレンドリープラザにて、井上ひささんの大学時代からのご友人である小川荘六さんをお招きし、「わが友 井上ひさし」と題したトークイベントを行いました。「井上」「荘六さん」と呼び合う仲だったという小川さんからは、学生時代の思い出から井上さんが拘つていたマナー、そしてお別れまで、五十年の交流から生まれた様々なお話を聞かせていただきました。「荘六さん、あのおはさんどうしたっけ」「もう殺しちゃつてるよ」「じゃあ、あの人は?」「それも死んだ」— 大学の試験を休もうとした時に会話を聞いていたときの会話だそうですですが、井上さんにそんな会話をしていた頃があつたんですね。

吉里吉里忌
プレ企画

井上さんと縁の深い方をお招きし、普段なかなか語られない素顔の井上さんに迫りました。

川西町の農村環境改善センターを会場に、イタリア料理研究家としても活躍する井上ユリさんのか分かりますか? 福島市市民活動サポートセンターにて、編集者作家(元「the座」編集長)小田豊二さんをお招きし、「井上ひさし名言辞典」と題したトークイベントを行いました。思わず笑つてしまふようなやり取りからこの国の未来についての深い話など、様々な状況で飛び出した井上ひさしさんの「名言」の数々をたっぷり聞かせていただきました。ちなみに「とびとびサスケ」は井上さんが育児のエッセイを頼まれた際に「休載ありますますがよろしくですか」と提示したタイトル。

遅筆堂トーキーin福島
「井上ひさし 名言辞典」

2017/1/15 sun

二十二万冊の蔵書につながる因縁の糸

井上ひさし蔵書＝遼筆堂文庫の二十二万冊には、太いのやら短いのやら、長いのやら細いのやら、見えない因縁の糸がくついている」と井上はいう。その糸を手織り寄せてみた企画展。

井上が本を発注するときに使っていたカーボン式のノートを見ると、注文の一冊一冊について、書名・著者名・出版社名が丁寧に書き込まれている。日付が入っていることから、そのときに書いた作品の参考に取り寄せたことがわかる。またそれらの書名にまざつてミステリー本が数冊ずつ入っている。執筆の合間に楽しみに読んだものと思われる。

またその年の「生活者大学校」の講師となる方々の著作本も、開講前にほとんど購入し読み込んでいる。発注書からみえてくるそのときの興味・関心・傾向・発注書も貴重な井上研究資料だ。

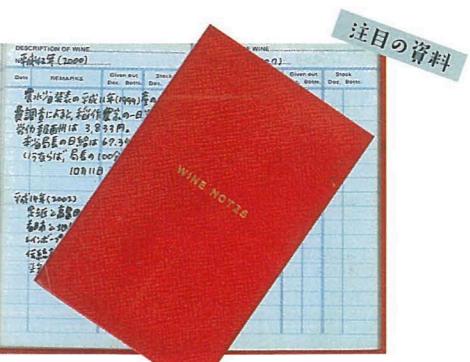
二〇一六年度 企画展

構成・文 遠藤敦子

「欧洲の大学の起源は図書館なのですよ。本があつて人を待つだけの図書館ではダメ。人が集まる場を作らねば。」

「という井上の言葉で始まった生活者大学。今年度で二十九回を数えた。講座は主に農業問題をテーマにしてきた。農業は生活の根幹にかかるもの。生産者、消費者という二極からみるのではなく、双方とも「生活者である」という視点から見つめ直してみよう」というのが「生活者大学校」の名にもつながった井上の言葉であった。

小ぶりな真っ赤なノートは、井上自身が「生活者大学校用の赤いノート」と呼んでいたもの。開くと生活者大学校で自分が話そうと考えていることや



生活者大学校用赤いノートと井上が読んでいたノートは、実は「ワインノート」とよばれるもの。実際の用途は、ワインを購入した時または飲んだ時の記録ノートである。ワインの種類・色・香り・味などを書きこむことができる。それらの項目欄を無視してメモ書きに使っている。井上は文具にかなりこだわる。万年筆はもちろん、ノートや原稿用紙の紙質にも、このワインノートが気に入っていたのは書き味のよさだったのかもしれない。

企画展 I
井上ひさしと本
会期：3月1日(火)～7月3日(日)



サンチャゴ「讃血亞護騎士団長」翻訳原稿
(4月9日㈯から5月8日㈰まで展示された。)

井上が上智大学の学生だった1957年ごろ、ポール・リーチ教授に依頼され翻訳したとみられるモンテルラン原作「讃血亞護騎士団長」の直筆原稿が古書店でみつかった。87枚に及ぶ原稿はホッチキス留めされ、表紙は柿渋でコーティングされている。井上自身の装丁と思われる。井上廻の「廻」は「ひさし」の本名の漢字。

井上の小説に「サンチャゴの騎士団長」という同タイトル似の作品があるが、この翻訳の内容とは違う。小説は、翻訳の依頼を受けたことで巻き起こったおかしくも切ない青春物語である。(講談社文庫「モッキンボット飾ふたたび」1985年刊に集録)



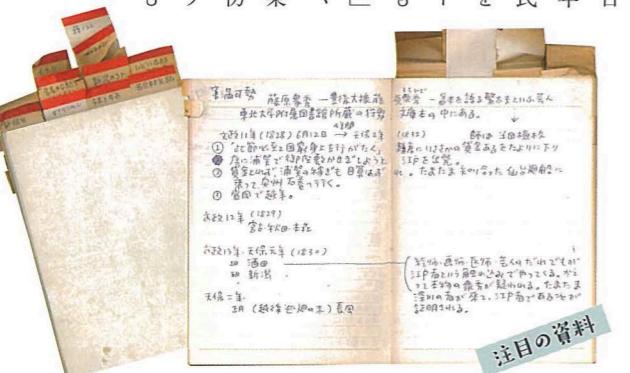
カーボン式のノート。一枚おきにミシン目が付いた紙になっており、破いて発注しても後ろのページが手元に残る。いつどこへ何を発注したか一目瞭然。墨跡の無いノートなのにまるで線があるかのように文字が描っている。しかも走り書きの文字は見当たらない。

企画展 II
井上ひさしと 生活者大学校
会期：7月5日(火)～10月3日(日)

「たいこどんどう」創作ノートみつかる!!



前進座創立85周年記念公演
「たいこどんどう」ポスター。
川西町フレンドリーブラザでは
12月3日㈯に上演された。



注目の資料

企画展 III

「たいこどんどう」著作資料展

会期：10月5日(火)～29年2月2日(木)



日本庶民生活史料集成 第三卷
三一書房

「たいこどんどう」は芝居にする前は「江戸の夕立」という小説だった。内容はほぼ同じ。筋立ての参考にした「筆満可勢」が収録されている「日本庶民生活史料集成」第三巻。

企画展 III

「たいこどんどう」著作資料展

会期：10月5日(火)～29年2月2日(木)



日本庶民生活史料集成 第三卷
三一書房

「たいこどんどう」は芝居にする前は「江戸の夕立」という小説だった。内容はほぼ同じ。筋立ての参考にした「筆満可勢」が収録されている「日本庶民生活史料集成」第三巻。

企画展 III

「たいこどんどう」著作資料展

会期：10月5日(火)～29年2月2日(木)

遼筆堂文庫で新たにみつかった「たいこどんどう」創作ノート。江戸時代にかかれいた旅芸人の記録「筆満可勢（ふでまかせ）」を抜き書きしたもの。「筆満可勢」は『日本庶民生活史料集成』第三巻（一九六九年三一書房刊）に集録されている。編者に民俗学者の宮本常一がいる。井上はこの本を読み込み「たいこどんどう」のストーリーを練つたものと思われる。芝居の台詞にも取られた「こちよごてい」「くすぐつたい」の方言のメモ。ネタ探しに苦労しながらも、江戸時代の旅芸人の愉快な記録を辿る作業は、実際に面白かったに違いない。それを彷彿とさせるノートである。この芝居をプラザで公演した前進座のキャストの方々にも大変興味をもって見ていただいた。

遼筆堂文庫で新たにみつかった「たいこ

どんどう」創作ノート。江戸時代にかかれ

いた旅芸人の記録「筆満可勢（ふでまかせ）」

を抜き書きしたもの。「筆満可勢」は『日

本庶民生活史料集成』第三巻（一九六九年

三一書房刊）に集録されている。編者に民

俗学者の宮本常一がいる。井上はこの本を

読み込み「たいこどんどう」のストーリー

を練つたものと思われる。芝居の台詞にも

取られた「こちよごてい」「くすぐつたい」

の方言のメモ。ネタ探しに苦労しながらも、

江戸時代の旅芸人の愉快な記録を辿る作業

は、実際に面白かったに違いない。それを彷

彿とさせるノートである。この芝居をプラ

ザで公演した前進座のキャストの方々にも

大変興味をもって見ていただいた。

遼筆堂文庫で新たにみつかった「たいこ

どんどう」創作ノート。江戸時代にかかれ

いた旅芸人の記録「筆満可勢（ふでまかせ）」

を抜き書きしたもの。「筆満可勢」は『日

本庶民生活史料集成』第三巻（一九六九年

三一書房刊）に集録されている。編者に民

俗学者の宮本常一がいる。井上はこの本を

読み込み「たいこどんどう」のストーリー

を練つたものと思われる。芝居の台詞にも

取られた「こちよごてい」「くすぐつたい」

の方言のメモ。ネタ探しに苦労しながらも、

江戸時代の旅芸人の愉快な記録を辿る作業

は、実際に面白かったに違いない。それを彷

彿とさせるノートである。この芝居をプラ

ザで公演した前進座のキャストの方々にも

大変興味をもって見ていただいた。

遼筆堂文庫で新たにみつかった「たいこ

どんどう」創作ノート。江戸時代にかかれ

いた旅芸人の記録「筆満可勢（ふでまかせ）」

を抜き書きしたもの。「筆満可勢」は『日

本庶民生活史料集成』第三巻（一九六九年

三一書房刊）に集録されている。編者に民

俗学者の宮本常一がいる。井上はこの本を

読み込み「たいこどんどう」のストーリー

を練つたものと思われる。芝居の台詞にも

取られた「こちよごてい」「くすぐつたい」

の方言のメモ。ネタ探しに苦労しながらも、

江戸時代の旅芸人の愉快な記録を辿る作業

は、実際に面白かったに違いない。それを彷

彿とさせるノートである。この芝居をプラ

ザで公演した前進座のキャストの方々にも

大変興味をもって見ていただいた。

遼筆堂文庫で新たにみつかった「たいこ

どんどう」創作ノート。江戸時代にかかれ

いた旅芸人の記録「筆満可勢（ふでまかせ）」

を抜き書きしたもの。「筆満可勢」は『日

本庶民生活史料集成』第三巻（一九六九年

三一書房刊）に集録されている。編者に民

俗学者の宮本常一がいる。井上はこの本を

読み込み「たいこどんどう」のストーリー

を練つたものと思われる。芝居の台詞にも

取られた「こちよごてい」「くすぐつたい」

の方言のメモ。ネタ探しに苦労しながらも、

江戸時代の旅芸人の愉快な記録を辿る作業

は、実際に面白かったに違いない。それを彷

彿とさせるノートである。この芝居をプラ

ザで公演した前進座のキャストの方々にも

大変興味をもって見ていただいた。

遼筆堂文庫で新たにみつかった「たいこ

どんどう」創作ノート。江戸時代にかかれ

いた旅芸人の記録「筆満可勢（ふでまかせ）」

を抜き書きしたもの。「筆満可勢」は『日

本庶民生活史料集成』第三巻（一九六九年

三一書房刊）に集録されている。編者に民

俗学者の宮本常一がいる。井上はこの本を

読み込み「たいこどんどう」のストーリー

を練つたものと思われる。芝居の台詞にも

取られた「こちよごてい」「くすぐつたい」

の方言のメモ。ネタ探しに苦労しながらも、

江戸時代の旅芸人の愉快な記録を辿る作業

は、実際に面白かったに違いない。それを彷

彿とさせるノートである。この芝居をプラ

ザで公演した前進座のキャストの方々にも

大変興味をもって見ていただいた。

遼筆堂文庫で新たにみつかった「たいこ

どんどう」創作ノート。江戸時代にかかれ

いた旅芸人の記録「筆満可勢（ふでまかせ）」

を抜き書きしたもの。「筆満可勢」は『日

本庶民生活史料集成』第三巻（一九六九年

三一書房刊）に集録されている。編者に民

俗学者の宮本常一がいる。井上はこの本を

読み込み「たいこどんどう」のストーリー

を練つたものと思われる。芝居の台詞にも

取られた「こちよごてい」「くすぐつたい」

の方言のメモ。ネタ探しに苦労しながらも、

江戸時代の旅芸人の愉快な記録を辿る作業

は、実際に面白かったに違いない。それを彷

<p

朗読セミナー

上手な朗読のコツは……

納豆!?



編集講座／綴り方教室

プロに学ぶ、
人を惹きつける文章の書き方

川西町フレンドリー・プラザがで

きる前の平成四年（一九九二）年から
続く、文章のノウハウを学ぶための
講座。元こまつ座『the座』編集長
であり、今でも精力的に文筆活動を
続いている小田豊二さんを講師に迎
え、毎年三月に開催しています。

内容は、参加者の皆さんから事前
にテーマに沿った文章を提出してい
ただき、当日講師の先生から直接添
削指導を受けるというもの。文章
の内容はフィクション・ノンフィク
ションどちらでも構いません。聴講
のみの参加も可能です。

第二十二回となった今年度の
テーマは「映画」「入学式（卒業式）」
「東京」「ラーメン」。今年度も先生
を唸らせる力作が揃いました。
また、通信制の「添削堂」も年三回
開催しております。

毎月第一日曜日には川西町フレン
ドリー・プラザ二階のサークル集会
室で行っています。
「井上ひさしさんの作品を気軽に
楽しもう」ということで、井上さんの
著作の中から一作品選び、それを全
員で読み、お茶を飲みながら感想な
どを話し合う会となっております。
井上さんの小中学校時代の同級生の
方も毎回参加してくださり、思い出
します。今年度は「馬鹿の治療」「握
手」「ブ、ンとフン」を読みました。
他にも井上ひさしさん関連のイベ
ントに参加したり、演劇を鑑賞し
たりと、活動は多岐にわたっています。
会費は無料！当日参加もOKで
す。詳細につきましては文庫まで
お問い合わせください。



遼筆堂文庫読書会

みんなで
井上作品について語ろう！



井上ひさしの付箋メモ

井上さんは読んでいて気になる箇
所があればアンダーライン、付箋、
書き込みなどをされる方でした。そ
うすることで、読み終わった時には
その本のダイジェスト版ができる
て、もう一度その本を読むだけ大事
な部分が分かる……と『本の運命』

（文芸春秋）で述べています。本の
表紙に直接あらすじが書き込まれて
いる本もあります。
遼筆堂文庫では、井上さんが本に
つけたメモや付箋はそのままにして
展示しております。当館にお越しの
際はぜひとも探してみてください。



「遼筆堂文庫と私の一年」



遼筆堂文庫研究員（川西町地域おこし協力隊） 山内 七海

《遼筆堂文庫利用案内》

【開館時間】

◎火～土曜日

午前九時三十分～午後八時

※冬期間（十二月～三月）

午前九時三十分～午後七時

◎日曜日・祝祭日

午前九時三十分～午後六時

【休館日】

月曜日※月曜日が祝日の場合は開館

祝日の翌日・年末年始・図書整理期間

一九九九～二〇一二一

山形県東置賜郡川西町大字上小松

一〇三七番地

TEL／〇二三八一四六三三一一一

FAX／〇二三八一四六三三一一一

メール／friendlyplaza@gmail.com

私は井上ひさしさんにお会いしたことがない。なので生身の井上さんを知らない。地域おこし協力隊として採用されこの川西町で過ごすようになつてから、井上さんと会つたことがある人・話したことのある人が沢山いることに驚いたし、「私にとっては、文学史の中の人」で、極端な喩をするなら芥川龍之介や太宰治と同じ立ち位置」と話したらいきなり笑われたことを覚えている。ある意味、遼筆堂文庫の中ではちょっと珍しい存在なのかもしれない。研究員として働く以上知らないでは済まされないと思ふ。本を読んだり話を聞いたりして井上さんと会つて努力したつもりだが、やはり実際に関わつたことがある人とそうでない人の間には越えられない壁があるので……という思いはぬぐいきれなかつた。「井上さんに詳しい方は沢山いるのに、全然知らない私が研究員なんか名乗つていいのか」と考ふこともある。

一番印象的だったのは、二月から始まる企画展の時のことだ。年度初めから私がその企画展を担当することが決まつていたため、夏ごろから少しづつ準備をしてきた。自分なりに研究・考察を深めたつもりだが、まとめたものを先輩方にお見せした際、このようなことがあった。「山内さん、ここ 부분はちょっと書き方変えた方がいい

「いやも」「それ、エッセイに書いてあつたのそのままです」「うん。でもね……井上さんのことだから、こう書いてあっても本心はちょっと違うかもしないから」

びっくりしたなんものではない。今まで研究といえば関連書籍や論文を読み、そこから考察を深め結論を出すという方法で進めてきたが、「この人は本心からそう述べているのだろうか」と推測することは殆どなかつた。まさかその後に「著者の人柄を考慮し、潜む本心を探る」という段階が来るだなんて思いもよらなかつた。私が研究員として圧倒的に経験不足かつ未熟なのも大きいのだろうが、當時は衝撃が大きかつた。けれど今なら分かる。私なんかよりもずっと井上さんを知つてゐる人たちが沢山いる中で研究をし、その成果を発表するのだから、それぐらい配慮して当たり前なのだ。あの時、私は研究員として一つ上の段階へ進めたのではないかと考える。

就任してもうすぐ一年。四月に比べたら得たものは多いだけそれは今更悩んでもどうしようもないことなので、私は私にできることを精一杯やろう——そんなことを考えた、とある日の午後だった。

